

横田基地におけるCV-22オスプレイの飛行について（要請）

令和5年9月25日の午後から夜間にかけて、CV-22オスプレイが瑞穂町市街地上空を基地西側から進入するコースで飛行訓練を行い、離発着及び旋回飛行を繰り返していた。さらには市街地上空でのヘリモードによる侵入、高度も100m以下と思われる超低空での飛行も確認され、町の測定器においては、100dbを超える爆音が記録されている。

住民からは「操縦士の顔が分かるくらいの低さで恐怖を覚えた」との苦情や、後部ハッチを開放したままの飛行で機内の軍人の姿が直視できる画像も届けられている。

これまでも、横田基地に関する東京都と周辺市町連絡協議会の要望では、横田基地周辺市街地上空での低空飛行及び旋回飛行を行わないこと、オスプレイの運用等について最大限の配慮を行うことを再三申し入れてきた。

さらに、本年1月20日には、瑞穂町市街地上空を飛行するCV-22オスプレイの飛行に対し、町単独で要請を行ったところであるが、今回の飛行はこれまでの要請を無視した形で実施され、国策のためにと耐えてきた町民の心情を踏みにじる行為であり、強く非難するものである。

いまいちど、CV-22オスプレイの昼夜を問わない旋回飛行に対する恐怖、騒音被害など、日々の生活における瑞穂町民の想いを理解いただき、今後、このような市街地上空での訓練が行われないう、強く要請する。

令和5年9月26日

在日米軍横田基地第374空輸航空団司令官

アンドリュー L. ラダン 大佐 殿

瑞穂町長 杉浦裕之